

# 故事成語「隗より始めよ」確認テスト（戦国策・十八史略） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

---

**問1** 死を弔（とむら）ひ生を問ひ／死を弔ひ生を問ふ。

解説：「弔レ死」「問レ生」はそれぞれ動詞＋目的語の形。「死せる者を弔い、生きている者を見舞う」の意で、戦死者を悼み遺族をいたわって、人心を集めようとした昭王の姿勢を表す。

**問2** 昭王が、賢者を招き寄せる（人材を集める）ために、自分のことばを低くしてへりくだり、（招くための）贈り物を手厚くしたこと。

解説：「卑レ辞」＝言葉をへりくだる、「厚レ幣」＝礼物を豪華にする。直後の「以招二賢者一（以て賢者を招く）」が目的にあたる。

**問3** 昭王（燕の昭王）。

解説：「孤」は王侯の自称。この発言は昭王が郭隗に語ったものなので、「孤」は昭王自身を指す。

**問4** 私（昭王）は、燕が小国であって（齊に）報復するには十分でないことを、よく承知している。

解説：「極知」＝十分に知っている。「燕小不レ足下以報上」＝燕は小さく、それによって報いる（仕返しする）には足りない、の意。

**問5** （ともに国を治めるのにふさわしい）すぐれた人物・賢者として推薦できる者。

解説：「可者（可なる者）」＝適任の者・しかるべき人物。ここでは昭王が求める賢士のこと。

**問6** 千里の馬（一日に千里を走る名馬）。

解説：「使二涓人求中千里馬上（涓人をして千里の馬を求めしむ）」より。

**問7** 死馬の骨（死んだ馬の骨）。

解説：「買二死馬骨五百金一（死馬の骨を五百金に買ふ）」より。生きた名馬ではなく、死んだ馬の骨を五百金もの大金で買って帰った点が、君主の怒りを招いた。

**問8** 死馬すら且（か）つ之を買ふ。況（いは）んや生ける者をや。

解説：「且」は「すら…且つ…」と読み、「況～乎」と呼応する。「生者」は送り仮名を補って「生ける者」と読む。

**問9** 死んだ馬（の骨）でさえこれ（＝大金で）を買うのだ。まして生きている（名馬）ならば、なおさら（高く買う）に決まっている。

解説：死馬すら買うのだから、生きた名馬を高く買うのは当然だ、と世間に知らせる狙いがある。

**問10** 抑揚（よくよう）形。「Aすら且つ～、況んやBをや」の形で、「Aでさえ～なのだから、まして（程度の重い）Bは言うまでもない」と、軽いものを挙げて重いものを強調する。

解説：「死馬」（軽い・価値の低いもの）を挙げて、「生者」（重い・価値の高いもの）を一層強調している。

**問11** 一年もたたないうちに、千里の馬（名馬）が三頭もやって来た。

解説：「不レ期レ年」＝一年を待たずして。「至者三（至る者三たびなり）」＝やって来たものが三たび（三頭）に及んだ、の意。

**問12** 先（ま）づ隗より始めよ。

解説：「從レ隗（隗より）」＝郭隗（私）から。「先…始（先づ…始む）」を命令の形で読む。

**問13** まして隗より賢い（すぐれた）者ならば、どうして千里の道を遠いと思おうか（いや、遠いとも思わず、はるばるやって来るだろう）。

解説：「賢二於隗一」＝隗より賢い、の比較。「豈～哉」は反語。

**問14** 反語（はんご）形。「豈に～や（哉）」の形で、「どうして～か、いや～ない（～ではない）」と、強い否定・断定を表す。

解説：「豈遠二千里一哉」＝どうして千里を遠いと思おうか、いや思いはしない、の意。

**問15** ①すぐれた賢士を得て、その人とともに国を治めること。②（その賢士の力を借りて）斉に破られた先王の恥をすすぐ（雪辱を果たす）こと。

解説：「誠得二賢士一与共レ国、以雪二先王之恥一、孤之願也」の部分をも二点に整理する。

**問16** 「死んだ馬の骨さえ高値で買う君主だ」という評判が広まれば、世間の人々は「あの君主は名馬を本気で求めている」と知り、生きたすぐれた名馬を持つ者が、こぞって売り込みに集まって来るはずだから。

解説：高く買う姿勢を見せること自体が、人材（名馬）を呼び寄せる「呼び水」になる、という論理。

**問17** 郭隗は、自分（隗）を「死んだ馬の骨」になぞらえている。たいした賢者でもない自分をまず厚遇すれば、それが呼び水（評判）となって、自分よりすぐれた本物の賢者（生きた名馬）が、必ず燕に集まって来るはずだ、という主張である。

解説：「死馬の骨」＝隗、「生きた千里の馬」＝隗より賢い者、という対応をおさえる。

**問18** ①郭隗のために宮殿を改築した（立派な邸宅を建てた）。②郭隗を師として仕えた（師事した）。

解説：「為レ隗改築レ宮」「師事レ之」の二点。隗を破格の待遇でもてなした。

**問19** 昭王が郭隗を厚遇したことが評判となり、それを聞いた天下の賢士たちが、われ先にと争って燕の国へやって来るようになった、ということ。

解説：「士争趨レ燕」＝士（人材）が争うように燕に集まった。郭隗の進言どおりの結果になったことを示す。

**問20** (1) 大事業を成し遂げたいなら、まず手近なこと・身近な者（＝この場合は郭隗自身）から着手せよ、ということ。賢者を招くには、まず凡庸な隗のような者を優遇せよ、という意味。

(2) 物事は、それを言い出した者・大きなことを望む者が、まず自分自身から始めよ、ということ。

解説：本来は「手近なところから始めよ」だが、現在は「言い出しつpegが率先せよ」の意でよく使われる。両方の意味を区別して覚えること。

**問21** （解答例）新しい節約運動を提案したのは君なのだから、隗より始めよで、まず君自身が無駄遣いをやめるべきだ。

解説：「言い出した者から、まず自分で実行せよ」という(2)の意味で使えていれば正解。

**問22** 『戦国策』（燕策）・『十八史略』。

解説：この故事は『戦国策』燕策に見え、後世の歴史入門書『十八史略』にも取められている。